

刊行のことば

栃木県農業試験場は、1895年（明治28年）5月に前身の栃木県立農事試験場が宇都宮市大字宿郷に設立されて以来120年を迎えました。

1895年からの100年間は、宇都宮市今泉に移転、「栃木県農業試験場」に改称、現在地である宇都宮市瓦谷町への移転外、分場の新設、廃止、組織の統廃合など、激動の一世紀でありましたが、これらの変遷の状況や当時の研究業績につきまして「栃木県農業試験場100年のあゆみ」にとりまとめてあります。

そこで、既刊行の100年のあゆみ以降の20年の足跡を整理することにいたしました。

この20年では、2008年いちご研究所の設立、2011年本館竣工、2012年に現行の農業試験場組織への改組がありました。

近年、県育成品種に対する期待が高まっており、これらに応えるべく、いちご「とちおとめ」、「なつおとめ」「スカイベリー」、二条大麦「ニューサチホゴールデン」「アスカゴールデン」、なし「にっこり」「おりひめ」、にら「ゆめみどり」、水稻「とちぎの星」、りんどう「おりひめ」、あじさい「きらきら星」などを開発しております。これら品種の開発は、多くの先輩諸兄の先見の明と努力の蓄積の賜です。

今日の農業を取り巻く情勢は、TPPの大筋合意など厳しい環境が懸念されるものでありますが、従来の枠にとらわれない新たな視点と創意工夫に活路を見いだし、本県農業の振興と農村地域の活性化に役立つ品種や技術の開発に努力する所存であります。

最後に、本誌の刊行にあたり、執筆の労をとられた関係各位に感謝し発行のご挨拶といたします。



栃木県農業試験場長 小瀧勝久

歴代場長



第24代 茂木 惣治
自 平成5年
至 同6年



第25代 栃木 喜八郎
自 平成7年
至 同8年



第26代 松浦 永一郎
自 平成9年
至 同10年



第27代 庄司 健二郎
自 平成11年
至 同13年



第28代 高橋 薫
自 平成14年
至 同15年



第29代 渋江 修
自 平成16年
至 同18年



第30代 関 一男
自 平成19年
至 同20年



第31代 鈴木 芳博
自 平成21年
至 同21年



第32代 鈴木 崇之
自 平成22年
至 同24年



第33代 安納 義雄
自 平成25年
至 同26年



第34代 小瀧 勝久
自 平成27年
至 同27年